

## まちづくり懇談会概要

テーマ：ふれあいパーク八日市場の活性化を通じた匝瑳市の農業振興について

- 1 日 時 令和5年7月7日（金） 14時35分～15時40分
- 2 場 所 市民ふれあいセンター 2階会議室
- 3 参加者 ふるさと交流協会員53人
- 4 市職員 市長 秘書課長 農林水産課長
- 5 概 要
  - (1) 開会
  - (2) 協会長あいさつ
  - (3) 市長あいさつ
  - (4) 意見交換
  - (5) 市長御礼あいさつ
  - (6) 閉会

### 6 懇談会の概要

#### ふるさと交流協会

大人と子供が交流できる場を設けてもらいたい。

#### 市長

体験交流については、ふれあいパーク近くの農地を借りて農業体験交流事業を拡大していくことを戦略会議の場で検討している。

都市と農村の交流がふれあいパークの一番の主題であることから多くのお客様に来店いただけるよう匝瑳市ならではの農産物を直接生産している皆さんとお客様が農作物を種まきから一緒に育て、収穫して食べるところまでの交流ができればと思っている。今年も現在の体験農園の場所でトウモロコシの種まきをしたところであり、これからもこのような体験交流事業を拡大していきたい。

#### ふるさと交流協会

チューリップ祭りが終わったあとの農地で保育園児などを対象とした芋苗の植え付け体験を行ったところ大変好評であった。秋に収穫できる点も魅力である。このような取り組みをふれあいパークでも行ってもらいたい。

## 市長

ふれあいパークとしてもこのような取り組みができるかどうか今後検討させていただく。

## ふるさと交流協会

アンケートの結果にもあった施設隣にある農村公園の活用についてだが、地元から遊具がもっと欲しいとの要望が出ている。

また農村公園の池に2年ほど前に子供が落ちたことがあり、当時、保育園の保護者会を通じて市に柵の設置要望を出したが対応してもらえなかった。現在も柵の設置がされていないため安全面で不安である。仮に遊具の設置をしても事故が発生してからでは遅いので対応していただきたい。

## 市長

ふれあいパークとしても農村公園を一体的にとらえて活用していく方が集客や利用客のくつろぎの場の提供などができて望ましいと考える。利用客の回遊性を高めたいとも考えている。

今は店舗と公園が別々であり、一体的に活用できていないので、駐車場から人が流れるような通路を市で検討したい。遊具等の要望については予算面のこともあり、すぐに作るとは言えない。

## ふるさと交流協会

以前、遊具と柵を寄付してもいいと言っていた団体がいたが、市で却下されたと聞いた。これはどうしてか。

## 市長

その点について市として把握できていない。改めて確認させていただきたい。

農村公園の池は、一部に柵はあるが全てに柵があるわけではないため、小さい子どもたちには危険と感じている。この件を持ち帰り、安全対策を採っていききたい。

寄付の件を含め、本会終了後に改めて相談させていただきたい。

## ふるさと交流協会

ふれあいパークに野菜を出荷しているが自分の年齢も55歳になり体力の衰えを感

じている。野菜売り場には以前のような活気がなくなり、空き場所が増えてきている。若い生産者も以前は見かけたがいつのまにかいなくなってしまった。活気のある野菜売り場にするにはどうしたらよいか。

匝瑳市内および近辺でとれる野菜は似かよったものになり差別化などは難しいことと思うが、このような問題について検討してもらいたい。

若い就農希望者が自分の農園に昨年入ってくれたが定着できなかった。「仕事がきつく、自分には合わない」で続かない人が多いのが実態である。若い人が就農して農業で食べていける方法も含めて今後の匝瑳市農業について考えてもらいたい。

## 市長

農業の活性化は非常に重要である。本市でも農業の後継者問題が大きな課題となっていると捉えている。後継者不足により今後10年、20年後には生産者がいなくなり耕作放棄地が非常に多くなることを危惧している。匝瑳市の魅力である田園風景に荒れ地が増えてしまうことは大きな問題である。

農業に力を入れていくため、今年度から産業振興課内にあった農政部門を農林水産課、商工部門を商工観光課の二つに分けた。

農林水産業の発展のため、米価下落対策や農業後継者の育成などの問題を打開すべく担当課と調整して現在、進めているところである。

今は、小さい規模でも農業が始められるようになってきているので若い移住者などに小さい規模から農業を始めてもらい、多品種少量、季節ごとの野菜をパークに出荷してもらうことも現在、考えている。会員になるなどのハードルはあるが、新たな若い生産者が出品できる環境整備を検討したい。

現状、大規模で農業をやっている出品者の場合、そちらの作業で手一杯になり、日々パークへの納品ができないこともあろうかと思う。旬の野菜など商品の品ぞろえがないとお客様に商品を買ってもらえない。お客様が離れてしまうことは、ふれあいパークの経営状況に直結するので集荷方法や出品物も含めて検討したい。

新たな出品者や生産者とふれあいパークをつなげていきたいので今後とも協力いただきたい。

## ふるさと交流協会

若い生産者が少なくなることは直売所の欠点だと思う。いくら費用をかけて丁寧にすばらしい物を作ってもお客様しだいで売れ残ってしまう。売れ残ったら生産者が持

ち帰りとなり廃棄することになる。安くてもいいから直売所で全量買い取ってもらえると大変助かる。生産者としては廃棄するのはもったいないと考える。

## 市長

生産者の方々が日々、手塩にかけて育てた農作物が売れないときは、確かに今のパークのやり方だと持ち帰ってもらうことになっている。残ったものは値引き等で販売していると思うが、売れ残ったもの全量をパークで買い取ることは実際には難しい。

直売所ならではの新鮮さを売りに多くのお客様がパークに訪れていると思う。生産者のみならず売る側の私たちももっとPR方法、陳列方法などを研究し、お客様が買いたくなる取り組みを会社としてこれからも進めていくのでご協力願いたい。

## 食品部会

近年、パークの売り上げが右肩下がりと聞いている。近隣の商業施設の開設や移動販売などの影響も考えられるが施設の老朽化もその一員となっているのではないかと。施設の老朽化に対して市ではどのように対応していくか伺いたい。

## 市長

確かに近年、売り上げが減少している要因として近隣に同様の施設が増えてきていることがあると考える。現状、新しい施設に人が流れている。ふれあいパークは開設して21年ほど経過しており、戦略会議の場でも施設老朽化に対する意見が出されているところである。特にトイレについては早急に対応する必要があり、費用が掛かることでもあるので一度持ち帰り、補助金の活用を念頭に費用をかけずに改修ができないか検討する。今しばらく時間をいただきたい。その他の老朽化箇所等についてはその都度対応を検討したい。

## 食品部会

交流化事業の活性化について質問したい。コロナによってパークや協会のイベントが減ってきた中で様々な事業計画が持ち上がってくると思うが、開催していない期間が長かったため開催ノウハウなどが失われてしまった。今後、イベントが増えていく中で市の協力を得ることや市開催事業とのコラボを行って失われたノウハウを取り戻す必要があると考えるが、市ではコラボ等を含めてどのように考えているのか。

## 市長

懇談会の前に行った総会も実に4年ぶりの開催であった。コロナによってイベントが行えなくなっていたのは、ふれあいパークが食品を扱う場所であるため様々な感染対策等を考えていかなければならなかったためであり、難しい面が多々あったと考える。

いままで定期的に行ってきた行事でも4年間も空くと開催ノウハウなどで難しい面もあるが行事をこれで終わりにはせず、しっかりイベントを復活させたい。

ふれあいパークでのイベント含め様々なイベントが復活していくことになる。市としてもイベントを通じて多くの人を訪れる様、交流協会と力を合わせしっかりと協力していく。

## ふるさと交流協会

匝瑳市の問題は何なのか。

若い人がいない。市の税収が増える見込みがない。この現状から匝瑳市が出発していくにはどうしたらいいか。何がやれるのか。短期間のなかで可能性があるものは、無駄を省き、浮いた分を新規投資に向けることだと思う。無駄な事業の一つとしてパークゴルフ場がある。若い人を匝瑳に呼び込む必要があるがこの施設では若い人は集まらない。パークゴルフをするのは老人だけである。海という資源がある匝瑳市には若いサーファー等が来ている。あの場所にはオートキャンプ場のような施設の設置が望ましかった。パークゴルフ場に年間数千万円の維持管理費が発生しているが利用者数はかなり少ないように感じる。10日間で自分は見た利用者数は7人のみである。施設で仕事をしている人員と利用者の数が同程度の利用状況は問題があると思う。

また匝りの里についてもなぜ有限会社ふれあいパークと一緒にできないのか。こちらにも年間一千万円を超えるお金が市から出ている。

匝瑳市は農業が基幹産業である。その農業を支えるためには若い人が匝瑳に来ないことには不可能である。我々は年を取るだけである。

農地もどんどん荒れ始めている。耕作放棄もされている。移住者などに農業をやらせようにしてもちょっとやそっとの規模では今、農業では生活ができない。

ふれあいパークを通じて農地を借りることが可能であることが分かった。交流協会では6次化事業を行って付加価値のあるものを作っていく必要がある。

良い例としてベトナムにレトルト加工したトウモロコシを卸している源清田商事と清水物産の事例がある。この会社で加工した商品を5年間冷蔵庫に保管していたが

圧力釜で真空パックして茹でてあるため、見た目の品質はまったく変わっていない。新しい農業を若い人に託すことをこの匝瑳では考えなければ発展はない。まずは若い人をどう匝瑳市に呼び込むか。それにはせっきある海の観光資源を活用し匝瑳市のリピーターになってもらうため、すぐにでもパークゴルフをやめてあの場所をお金のかからないオートキャンプ場とすることを提案する。

草だらけの農地を持っていても大利根の賦課金や固定資産税がかかることから整備して管理してくれれば農地を無償で譲渡するといった話や農地を貸したいとの話が自分のところに多く持ち込まれている。これが匝瑳市農業の現状である。

市長は前向きに考えてくれている。我々の声を聴いてくれている。我々もどんどん提案して一緒に頑張っていこう。

## 市長

市として考えていかなければならない一つの課題と思っている。

貴重なご意見として検討させていただきたい。

## ふるさと交流協会

昨年の5月に東京から移住してきた40代の男女が独立を目指し、匝瑳市で農業を始めたいと私のところに来た。1年間働いてもらったが私の目から見て現段階では独立して農業をやっていくのは厳しいと判断していたが、人に雇われて働くのがしっくりこなかったようで辞めてしまうことになった。

農地を貸し出す話などはいくらでも入ってくるが、仮にこの2人が農地を借りて農業を初めても難しいと思う。ふれあいパークに出品できたとしても売れた分はお金が入ってくるが売れ残ればゼロで処分するしかない。それで食べていくのは容易でない。

本気で匝瑳市の荒れた農地を将来どうにかしたいと考えるのであれば、農家の長男が跡継ぎにならないこの時代、首都圏には潜在的に農業に興味がある人はいくらでもいる。その人たちをいきなり放り投げるのではなくパークとしてある程度生産物が出荷できる体制であったり、パークで借り上げた農地での作業であったり、農地の斡旋であったり、その人たちが育っていける環境整備ができればと思う。

先に話した二人も今月いっぱい辞めることになっており、この先のことはまだ決めておらず、できれば農業をやれる道を見つけていきたいがどうしたらいいかわからない状況にある。

自分たちも荒れた畑を管理することで手一杯であり、この人たちの手助けを現状で

はできない。この場を借りてお願いしたい。放っておいたらこの人たちは農業以外の仕事を見つけて離れていってしまう。こういった人たちが段階的に就農への道を進んでいける方法を模索していただきたい。

## 市長

農業に興味を持って移住してきている方、コメ作りの体験をさせているNPO法人、匝瑳市の魅力を感じて移住してきている方などがいる。

家庭菜園的などところでの自給自足をしている方もいるが本当にそれだけでしっかりと食べていくことは厳しいのではないかと思うところはある。

農業を始めるにはかなり技術がいると思う。県の出先機関などで指導してもらっているが直接、生産者の皆さんに受け入れてもらいながら働く場所としてもらい、経験を積んでから自立していつている。今回、話のあった方も市に一度、相談をいただけたらと思う。この場から離れてしまうのではなく、匝瑳市にいてもらい、新規就農者として育てていつてもらいたい。これから市として真剣にやっていかなければ、誰一人として育たない。皆、農業はきついというイメージがある。皆さんはご存じのとおり、本当の農業、作っていく、育ていく、手をかける、そうして出来たものは美味しい。そういうことを移住者等にも知ってもらいたい。そういった思いで皆さんは一生懸命に農業をしていると思う。そういった方たちをもっと知ってもらいたい。移住者にも農業はすごく大切なものであるし、楽しいということを多く知ってもらいたい。

今一步踏み出せないでいるところの後押しを何か市でできないかと考えている。

まだまだ手探りで自分もどうすればいいか考えているが、今の生産者でさえも今後農業を続けていくためにどうすればいいのかという岐路に立っていると思う。そういったところをしっかりと後押しできるように考えていきたい。もちろん市だけではなくなかできないので県であったり、いろいろな団体と協力しながらやっていきたいと考えている。引き続き、アイデアがあればどんどん聞かせてもらいたい。

## ふるさと交流協会

提案だが、過疎認定を受けたことを逆手に取って対策をとってはどうか。

脱都会で来た人が新規就農者となることで150万円を5年間貰える制度がある。

それに加えて、地域が過疎認定を受けていた場合+α分がさらに出るという話も聞いている。

住んでいる集落に環境保全会が存在するところもあると思うが、環境保全会も人が

いなくなり、花植え作業などができなくなっているところもあると聞く。保全会にも大小あるが100万円から200万円の補助金が付いている。一方で農業機械利用組合もある。そういったものを総合的に考えて、脱都会で田舎に来て、150万円貰って専業農家のところを手伝ったりすればそれがプラスになり、自分の畑でも野菜を作る。専業農家からアルバイト料をもらう。300万円400万円と収入を増やす機会がある。

荒れた農地を農地に戻す事業があり、一反歩20万円の補助金が出るものもある。1年で10町歩、20町歩を専用の機械があって、そこをやってくれる人がいれば、1町歩で200万円になり10町歩やれば1年で2000万円補助が出る。

脱都会の人が過疎の匝瑳市で働く場はいっぱいある。それは行政を我々が一緒になって考えて、どこに可能性があるか、どこに問題を抱えているか、そこを真剣に議論して、農林水産課の職員の人にはこういった事業があることを調べて調査してもらう。

今は脱都会の人の奪い合いになっている。匝瑳に来るメリットがあることを知らせる必要がある。安心して働いて収入があるということを。それをアピールしないといけない。とにかく若い人に来てもらう。財政が厳しい銚子市では市の職員ですら隣の神栖市に移っている。このまま行ったら匝瑳市は、旭・多古・横芝光に人が流出してしまう。時間がない。市長は我々の声を聴く耳を持っている。現場の職員が気持ちよく働いてもらえるようなそういった街に皆でしていきましょう。

## ふるさと交流協会

市では他県からくると100万円とか200万円とか補助が出るということか。

## 市長

移住してきて直ぐにというものは市の施策にはない。

## ふるさと交流協会

市長に伺いたい。前市長が12年、江波戸市長がその前を務めたが、八日市場と野菜の合併時には人口が4万人を超えていたと思うが当時ほどのくらいだったか。

## 市長

約4万2千人であったと記憶している。

## ふるさと交流協会

現時点での人口はいくつであるか。

## 市長

今は約3万4千人である。

## ふるさと交流協会

先ほど、調べたところ令和2年度であったか、3万5600人であった。

今は3万4千人ですか。

匝瑳市でも他県から移住してきた人に保育園、小学校、中学校くらいまで補助金をいっぱい出してあげてほしい。また空き家がたくさんあるのでそういったところに都会からの移住者を住ませたら人口がいくらかでも増えると考えている。首都圏に向けてこのような施策の宣伝を行えばいいのではないか。

みなさんご存じの有名な「さかなクン」がいるが、あの人は東京から房総の館山に移住している。また「坂上忍」も袖ヶ浦で動物をたくさん飼育している。空き家も匝瑳市にたくさん出てきたと思うので首都圏に宣伝をかけて匝瑳市に移住した場合には、子どもが高校に行くまではたくさん補助金を出しますとか言えば移住者が増えるのではないか。YouTubeを見ていると兵庫県ではこのような取り組みを行っている。千葉市の鎌取では電車の速いのができたのですごく人口が増えていると聞く。

ところが匝瑳市は、何年もしないで7~8千人も人口が減っている。このまま行ったら2万5千人になってしまう。

## ふるさと交流協会

高校を卒業し、1か月間酪農の実習に行っていた岡山県の奈義町がニュースに取り上げられて驚いたことがある。

人のいない町だと思っていたら、日本で一番出生率が高い町になっており、総理大臣が視察に行ったとのニュースであった。出生率2.8で世界中から視察があるとのことであった。どうして8割以上が山間地の町がそのような町に変わったのか。

まず、町議会議員の数を半分に減らしたとのことであった。匝瑳市の議員は少子化対策に関心を持っているのだろうか。

銚子連絡道が飯倉駅まで延伸され、それに対して市長はいろいろ提案をしている。市民の目がそこに向ける必要がある。農地区域を宅地に計画変更し、そこで農業関連

企業を誘致したいと市長は提案している。皆が関心を持って目を向けていないといけない。匝瑳市は今、本当に時間がないところまで来ている。市長を皆で市長を推しましょう。

## 市長

これから銚子連絡道路が今年度中に開通する予定となっており、この前、国道に陸橋がかかり、いよいよ道路ができるところが見えてきた。道路ができてもしっかり生かさないと意味がない。匝瑳市は成田空港にも短時間で行ける場所にあること。今後の空港機能強化に伴い、多古町まで第3滑走路が伸びて広がること。また多古町周辺まで圏央道が伸びてくること。これらのことから匝瑳市は立地的に良い条件にあるといえる。空港に近いと土地代も高いこともあり、匝瑳市の土地が安い点に対して企業も興味を示している。

今後は、インターチェンジ周辺を開発し、これからの多様な産業の受け皿となる場所とすることが目標である。インターチェンジ周辺に匝瑳市の基幹産業である農業分野と関連した企業を誘致し、雇用を創出したい。

匝瑳市の一番の課題は少子高齢化という中での人口減、そして18～20歳ぐらいの若い人たちが学校の卒業とともに就学、就職のため匝瑳市を離れ、なかなか戻ってこない点にある。戻ってこない理由は希望を叶えるような雇用の場がないことである。これが匝瑳市のひとつの課題である。道路開通により都内まで短時間で行ける。空港まで近い。そういったところで産業を興し、働き口がしっかりあるところにしていくことで対応したい。今までの匝瑳市はシティプロモーションが弱かった。子育て世帯に向け、匝瑳市で行っている高校生までの医療費無償化などをはっきりと打ち出していく必要がある。成田空港から一番近い立地でありながら騒音圏でないこともPRポイントとなると思う。東京から離れてゆっくり暮らしたい人や子育てする環境にはすごく良いという点をPRして、東京からの移住者をもっと呼びこんでいきたい。

企業が進出し、人口が増えることで税収増につながる。税収が上がれば、今まで目の届かなかった道路や排水路などの修繕などにお金を回せるようになり、住みやすい環境を創っていける。このような好循環を創出したい。ご指摘のとおり、もう時間がない。どの自治体も同じようなことを考えている中でどれだけ早く効果的にPRしていけるかが匝瑳市の分かれ道と思っている。しっかりと先頭に立ってやっていきたい。

以上